Friends 帰国生 母の会

第81号 2023年12月1日 発行

フレンズだより

～40周年記念号～

CONTENTS

P2 「40周年お祝いメッセージ」
東京海上日動火災保険株式会社
理事 マーケット戦略部長 吉田昌弘様

P3 「大いなる導き手」外務省 大臣官房人事課
子女教育相談室 室長 小澤一郎様
「フレンズ創設40周年をお祝いして」
公益財団法人海外子女教育振興財団 理事長 綿引宏行様

P4-7 フレンズ40年の歩み

P8-11 学校案内の作り方／寄稿：株式会社早稲田アカデミー

P12-13 海外赴任前セミナー
寄稿：日本製鉄株式会社／花王株式会社

P14-15 近年の相談の傾向について

P16 スタッフ・旧スタッフ過去の滞在国

P17-19 スタッフアンケート

P20-21 フレンズだより 40年の振り返り

P22 シンポジウム・講演会

P23 賛助企業のご紹介

P24 編集後記

発行／フレンズ 帰国生 母の会 ｜ 〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-16 日動火災・熊本県共同ビル8階

No.81

40周年お祝いメッセージ

東京海上日動火災保険株式会社
理事　マーケット戦略部長　吉田　昌弘

フレンズ 帰国生母の会の創設40周年を心よりお祝い申し上げます。

フレンズさんと弊社は、1987年以来、約35年間の提携関係が続いております。協業に至った背景ですが、弊社の保険商品の中に海外に赴任される方とそのご家族をお守りする保険がありますが、ご契約者となる特に親御様に保険以外でもお役に立てることがないかと考え、フレンズの皆さまが海外に行かれる方が抱える様々な不安や悩みに寄り添われているということから、皆さまとご縁を持たせて頂きました。

フレンズの皆さまには、実際に海外で生活されたご経験をもとに、これから海外に赴任される方々に海外生活の準備や学校選び等様々なジャンルのアドバイスを行って頂いていますが、私も今から10年ほど前に家族4人で海外赴任をすることになった際に、フレンズさんに主催頂いた家族向けの赴任前研修に妻も参加させて頂きました。私たち家族にとって初めてのことばかりで苦労が多く、特に赴任前は当時小学生だった子供達の学校等に関して大きな不安を抱えていましたが、皆さまからの貴重なアドバイスに助けて頂き、大変感謝しております。

近年コロナの影響で海外渡航者が減少していましたが、感染状況がだいぶ落ち着き、海外駐在される方も少しずつ増えていることと存じます。世界的なパンデミックの影響により、今まで以上に海外での生活に不安を感じる方が多くいらっしゃると思います。そのような中で、多くの方々に寄り添い、温かな支援を提供していかれる皆さまの活動が一層の発展を遂げ、多くの方々の笑顔や幸せを生み出すことを願っております。

これからもフレンズ 帰国生母の会の益々のご活躍を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせて頂きます。

大いなる導き手

外務省　大臣官房人事課子女教育相談室　室長　小澤　一郎

「フレンズ 帰国生 母の会」創立 40 周年、おめでとうございます。

振り返ると、1971 年に設立された海外子女教育振興財団（現在、公益財団法人）が教育相談事業を展開し、その後、各企業においても教育相談室が創設されました。外務省においては 1979 年に子女教育相談室が設けられましたが、創設に際しては、海外赴任に伴って子供の教育に苦心した母親たちの子女教育の活動も支えになっていたことが伺えます。

そのような折、1983 年 10 月にフレンズが創設されたのは時期を得た出来事でした。とりわけ、海外赴任に伴う教育問題を家族の中で中心的に受け止めてきた母親たちの経験、知見が生かされていることはとても心強いものでした。40 年前は海外赴任者が増えて、必然的に帰国子女も増加しつつある時期でした。その後、発信される会報や「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 首都圏版」などは、手作り感満載の情報誌。会員による教育相談は、子供や保護者にとって全幅の信頼をおく大いなる導き手でありました。

2010 年にフレンズは、企業・団体における教育相談員のネットワーク「海外子女教育専門相談員連絡協議会」に加入し、相談員間での情報交換、研修を重ねております。わたくしもその一員として微力ながらその運営に携わっておりますが、国内だけでなく、地球上のあちらこちらに散らばって活躍しているフレンズ会員からの情報は、足元まで見えるようなリアルで新鮮なものです。

これからも、次世代を担う若者たちが、海外に羽ばたき、帰国し、それぞれにあたえられた賜物を存分に生かすことができることを願いつつ、フレンズ会員の益々のご活躍と会の発展をお祈りいたします。

フレンズ創設 40 周年をお祝いして

公益財団法人 海外子女教育振興財団
理事長　綿引　宏行

フレンズ　帰国生母の会が創設 40 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

創設の年である 1983 年（昭和 58 年）は、一年間に帰国する小中高の児童生徒数が初めて 1 万人を突破した年でもありました。当時帰国生だった皆さんは、今では人生の最も充実した世代として各地で縦横に活躍されていることでしょう。

不安を抱えての海外渡航、異なる生活習慣の中での暮らし、勝手がわからないわが子の教育、一見華やかな印象を与える海外転勤の陰にこうしたハードな現実が待ち構えていることを、貴会会員の皆様は身をもって実感されておられます。様々な課題に直面し、孤立無援の思いをされた方も少なくなかったのではないでしょうか。

そうしたご経験の数々を経てこられた皆さまであるがゆえに、貴重な体験を皆で分かち合いたい、同じような悩みに向き合う方々を支えたいという願いはひとしおであり、その思いが形となって貴会の誕生に繋がったものと拝察いたします。「個人の体験を社会に還元しよう」という皆様の情熱が、この 40 年にわたる尊い活動を支えてきたといえます。

また、その名が示すとおり貴会は「母の会」であり、母親の視点から事業を企画し推進されてこられたことは、まさに貴会ならではの大いなる価値を世の中に提供するものであったと確信いたしております。皆様のこれまでのご活躍の数々を、私ども財団が心強く感じていたことは紛れもない事実です。

末尾になりますが、皆様の日々の地道な歩みに敬意を表しますとともに、貴会のますますのご発展をお祈り申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

フレンズ 40 年の歩み

現名称「フレンズ　帰国生　母の会」の始まりは 1983 年(昭和 58 年) 10 月。駐在員の妻として海外生活を終え帰国した一主婦の呼び掛けに 10 数名の母親たちが集まり、代々木のワンルームマンションを事務所に借り、ボランティアグループ「帰国子女の会フレンズ」がスタートしました。

2023 年 10 月、40 周年を迎えるに当たり、これまでの歩みを簡単にご紹介します。

活動の開始　－母親たちの思い

「海外での体験、帰国後の学校選び、及びそれに伴う様々な経験で得たものを個人だけのもので終わらせることなく、後に続く人々に繋げていくことで、帰国生の抱える諸問題の解決の手助けをし、さらにはすべての子どもたちにとってのより良い教育環境とは何かを考え、子どもたちの幸せを願って活動すること」それが設立の趣旨です。

海外赴任者にとって最も気掛かりなことは、子どもたちの現地での教育と適応、そして帰国後の日本の教育や環境への再適応の問題です。当時は日本の学校文化を知らずに帰国した子どもたちを温かく迎え、海外での体験を評価し、適切な指導をしてくれる学校は少数でした。母国での適応に苦労する子どもたちを見て、日本の教育の現状を知り、どこかおかしいと強く感じ、子どもたちの幸せのために何かしなければとその思いで活動を開始しました。

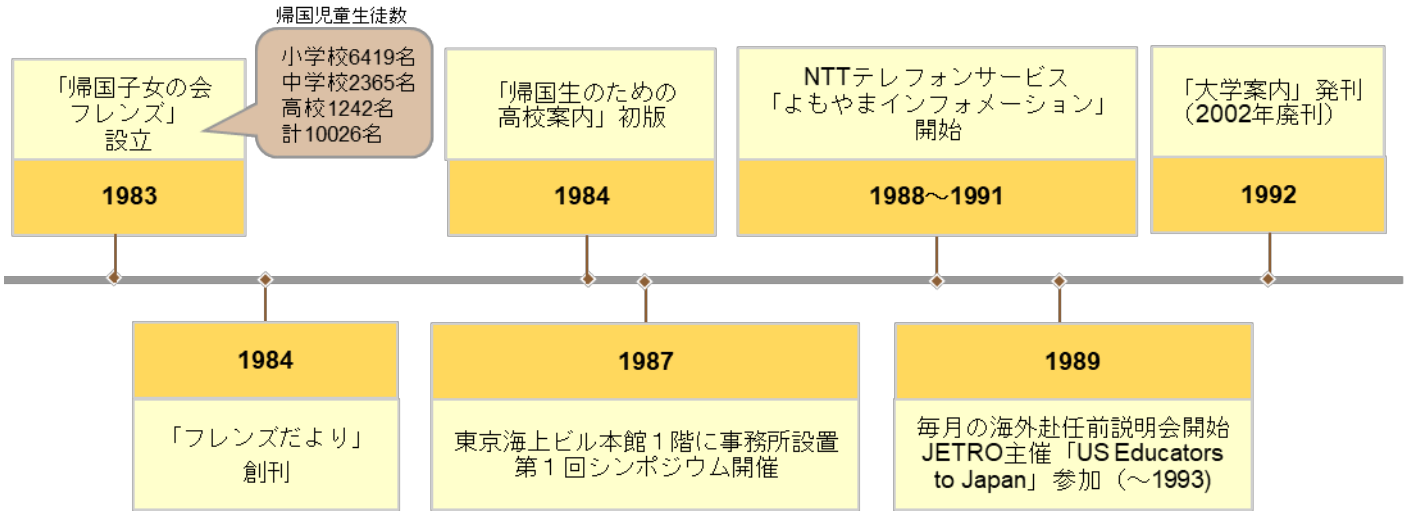
まず「海外勤務者子女教育に関する要望書」をまとめ、文部省(当時)、東京都教育庁を訪問し、文部大臣、教育長に直々に要望を聞いていただきました。

次いで高校受け入れ校探しに苦労した経験から、設立一年後の 1984 年 10 月、帰国生のための「高校案内―母親が歩いて見た学校案内」を制作しました。高校を訪問して、帰国生への理解と受け入れをお願いしました。

フレンズは、海外赴任する家族や帰国する家族の不安、戸惑いなどが少しでも軽減されるように、一足先に帰国した母親たちが自身の体験や海外で得た情報を活かしながら、あくまでも偏らない中立の立場で面談や電話・メールなどによる相談に応じ、サポートすることを活動の中心とし、今もその姿勢は変わりません。また、「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内」の制作、発行のために学校訪問等を行うことにより、帰国生への理解を一層深めていただくよう努めています。

このような活動を通して母親たちが手を取り合い、声を一つにして、海外で育った子どもたちの貴重な体験が、帰国後も活かされるような教育、さらには、国内で育った子どもたちと共に、お互いの良さを認め合い、伸び伸びと成長して行けるような教育が広がるよう、働き掛けていきたいと考えています。

フレンズ タイムライン
& その頃世界は



活動の道筋－運命的な出会い

海外赴任者会員制としてスタートした設立当初の会の運営は、常に活動資金の不足との戦いでした。

会員とは、会の趣旨に賛同し、フレンズからの情報提供などを希望する人で、赴任前からの入会者(渡航前から帰国後 1 年までの相談などに対応)を海外会員、帰国後の入会者を国内会員とし、それぞれから入会金(海外会員 1 万円・国内会員 5 千円)をいただき、また、スタッフも入会金を支払って活動に参加しました。これら入会金の他に、企業からの賛助金、「高校案内」と「大学案内」(1992 年から隔年おきに 2002 年まで発行)の出版販売による収益なども得られましたが、オフィス立ち上げ時の借金の返済、事務所の家賃、電話代、コピー代その他の諸経費の工面だけで精一杯でした。従ってスタッフの交通費等は賄うことができず、会員の要望に応えて誠実に活動すればするほど、スタッフ個人の経済的負担が重くなるという状況でした。

1986 年 9 月までの延べ会員数は 462 名｛海外会員 304 名、国内会員 158 名(スタッフ 32 名を含む)｝。増え続ける会員に対してどこまで対応できるか、活動の将来的見通しを検討する必要を感じ、1986 年 10 月以降、相談、問い合わせには応じていましたが、新規会員登録を中止。会員制ではない形で活動を続ける方法を模索し始めました。

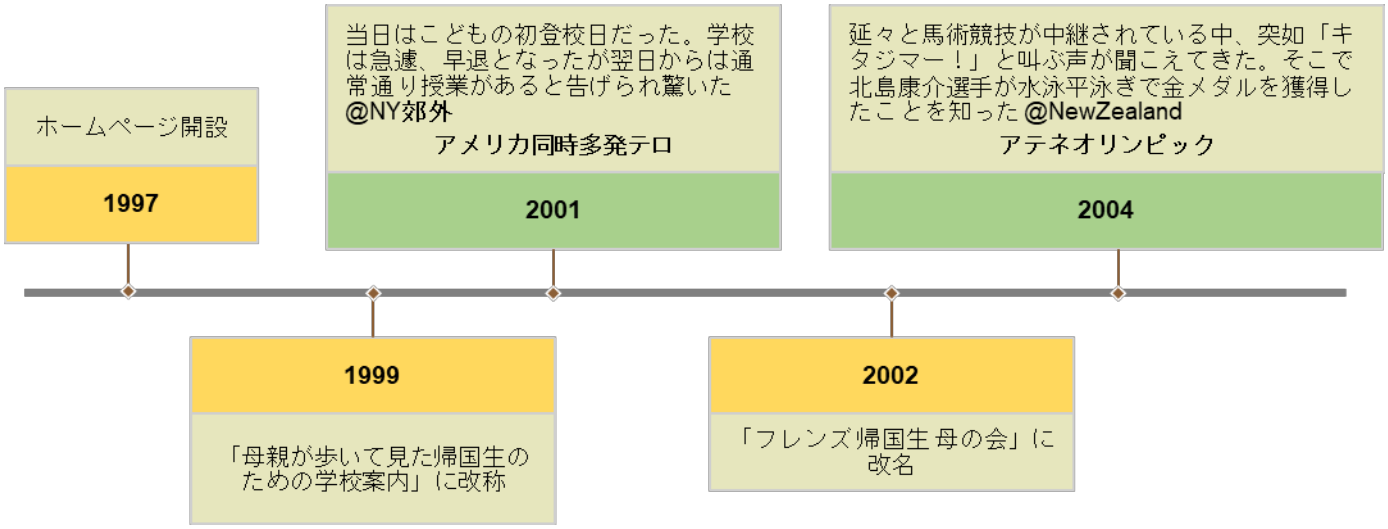
ちょうどその時期に、東京海上火災保険株式会社(当時)主催のシンポジウム会場で、「高校案内」の紹介のため出かけたフレンズ代表が当時の企業営業推進課長の濱筆治氏に出会い、フレンズの活動のその後の道筋を照らす機会を得ました。

そこでフレンズの活動内容とその窮状を知った同社から、「海外関連中小企業対象のサービス業務の一部、海外・帰国子女教育や生活に関する相談、問い合わせに応じることを条件に、何らかの援助ができるのではないか」というお話をいただいたのです。

フレンズ内部では賛否両論あり、約半年の間、繰り返し討議がなされ、あくまでもフレンズ独自の活動を維持することを前提に、同社の海外関連企業向けサービス業務の一環である「コンパスクラブ」会員企業からの相談に応ずることを基本とした業務提携を行うことになりました。濱氏のご尽力で 1987 年 3 月、東京海上ビル本館 1 階奥に事務所が設けられ、「海外子女教育・生活相談コーナー」を担当することで新たなスタートを切りました。オープニングは TBS、朝日新聞に取り上げられました。

1987 年 4 月以降、活動の拠点を東京海上火災保険株式会社(当時)に置き、設立以来続いていた会員制を取りやめ、広く企業・個人等に賛助金を募り、それらに加えて、学校案内の発行等により得た資金を会の運営費に充てることになりました。家賃負担がなくなるなど、資金面での厳しさが緩和され、スタッフに交通費を支給できるようにまでなりましたが、「高校案内」や「大学案内」の印刷代金は、出版後ある程度の売上金が回収できて現金が溜まらないと支払えないという状況はしばらく続きました。

現在も東京海上日動火災保険株式会社様からは事務所の提供だけでなく、様々な形で支援をしていただいています。運営資金については従来どおり、企業賛助金、学校案内出版販売による収益金、機関誌の広告料、講師料、面談料などにより、フレンズ独自で調達しています。



活動の発展－現在まで

その後、書店への販売依頼、賛助企業募集活動などスタッフの熱心な活動と時代のニーズも高まりIBM、住友商事、YKK などの企業や経団連の社内誌、読売、毎日、産経、東京、朝日、日本経済新聞など各新聞にフレンズの活動がたびたび取り上げられました。中でも朝日の「人」の欄に代表が掲載され、また日本経済新聞の「春秋」に論説副主幹、宮智宗七氏が活動紹介記事を掲載して下さり、大きな反響を呼びました。

1987 年第 1 回シンポジウム「父と子の体験から」を開催。各社人事部など 300 名の参加者があり、好評を頂き、以後シンポジウムを 13 回、各方面から講師をお招きした講演会を 5 回開催し帰国生の声や赴任者の実情を伝えています。

1988 年から 1991 年まで 28 回、NTT 松戸支社テレフォンサービス「帰国子女よもやまインフォメーション」を担当、1989 年日本在外企業協会のビデオ「海外駐在婦人のためのメンタルヘルス」、NHK ラジオ・テレビ出演など活動が広がりました。

1989 年から 1993 年は JETRO 主催の日米草の根教育シンポジウム「US Educators To Japan」で日本人児童を受入れている米国現地校の教員との意見交換に参加し、「現地校に通う子ども達のために親が出来ること」をまとめ、赴任前セミナーで紹介しています。

帰国生の急増に伴い、都立小山台高校、神奈川県外語短期大附属高校(当時)、船橋市立葛飾小学校、世田谷区梅丘中学校など日本の受け入れ校からの講演依頼も増え、各地域の帰国生の母親の会との連携も計られました。

帰国生が抱える問題を通して日本の教育への要望など意見も取り上げられ、1990 年から 1992 年まで代表が経済企画庁「国民生活審議会」の臨時委員を務めるなど、多くの方々のご指導、お力添えなどにより、フレンズの知名度や信頼度も上がり、相談や問い合わせの件数、学校案内の売れ行き、賛助企業も増え、運営資金を賄えるようになりました。

2002 年 10 月、「帰国子女」の名称が使用されなくなり、また、帰国生が集まった団体と認識されたこともあり、現名称「フレンズ 帰国生 母の会」に改称し、「帰国子女の会フレンズ」として歩んだ 19 年の歴史に一区切りです。

2009 年からワイズパブリッシングジャパン発行の「帰国便利帳」、NY 生活プレス社発行の週刊 NY 生活「教育なんでも相談室」を担当。

2010 年からは海外子女教育専門相談員連絡協議会に参加させていただき、貴重な意見交換や現状の問題など勉強させていただいています。

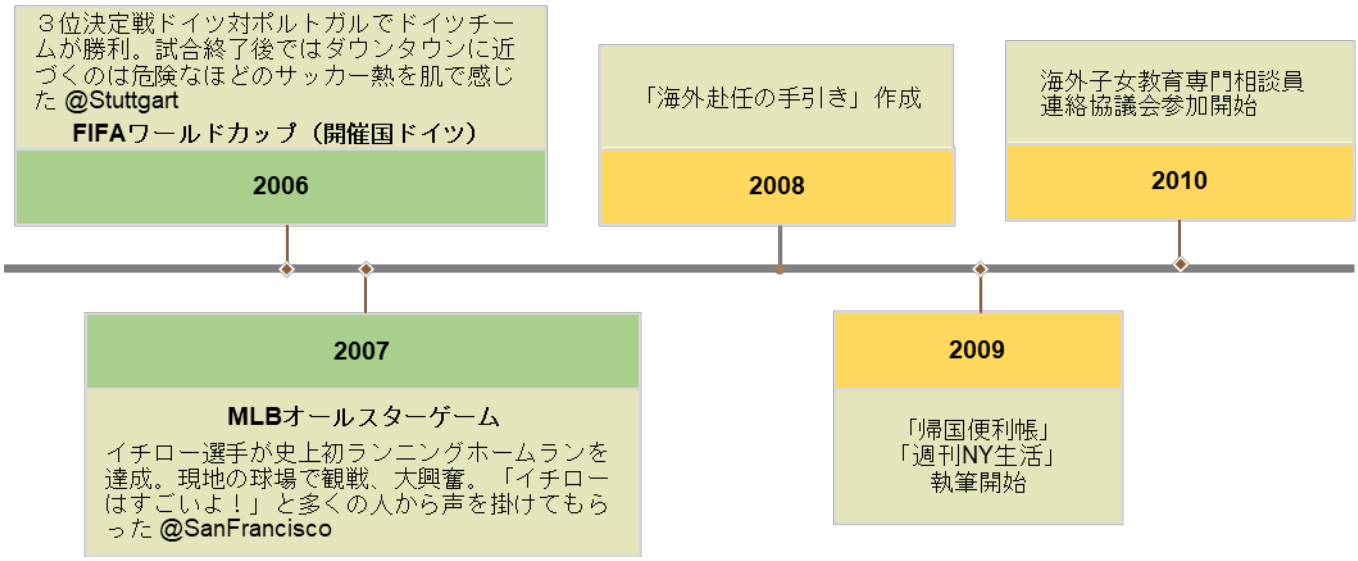
2013 年から海外子女教育振興財団主催「帰国子女のための学校説明会・相談会」のブースを担当(近年はオンライン開催のため資料提供にて参加)。

2021 年 9 月、東京海上日動火災保険株式会社本社ビル立て替えのため中央区銀座 5-3-16 日動火災・熊本県共同ビル 8 階に移転し活動を続けています。

時代や経済状況の変化にもかかわらず、37 年に亘りオフィスの提供、賛助とフレンズの活動の根底を支え続けていただいております東京海上日動火災保険株式会社様には心より厚く御礼申し上げます。

これまで賛助いただいた企業は総数 47 社、フレンズだよりに広告掲載いただいた企業は 21 社に上ります。2014 年からは学校案内にも広告掲載を開始しました。近年はコロナの影響、時代の流れ、不況により賛助企業が減少し、23 年度は 10 社に賛助いただいています。

賛助企業として支えていただいております各企業様にも御礼申し上げます。



フレンズの活動

赴任前セミナー

1989 年より毎月、賛助企業を対象に海外赴任前説明会(現 赴任前セミナー)を開始しました。

1991 年には衛星放送で赴任前セミナーを、9 月に東京海上火災保険株式会社(当時)福岡支店にて赴任前セミナーを実施。

2000 年より文部省(当時)の「在外教育施設派遣教員研修会」で、海外の日本人学校・補習校に赴任される教員方への講演を行っています。

2008 年に「海外赴任の手引き」を作成、子どもの教育に関するアドバイスとしてアメリカ事情、イギリス事情、現地校に通う子どものために親ができること、海外生活を 10 倍楽しく過ごすためのアドバイス、図書参考書についてのアドバイスなど掲載しています。

40 年間で活動に参加したスタッフは約 300 名に上り、海外での貴重な情報、体験を共有し、これから赴任する方に役立てていただいています。

1991年~2002年
マリンテラス時代の
オフィス

2008年~2021年
東京海上日動ビル新館7階
オフィス

学校案内

現在の「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内」は、設立一年後の 1984 年 10 月、「帰国生のための高校案内」として初版を発行して以来、毎年版を改め発行しています。設立当初は義務教育終了後、高校での帰国生の受け入れが少なかった「高校」のみを取り上げていましたが、時代の流れと共に「中学校・高校」を取り上げるようになり、小学校の情報なども掲載した現在の学校案内となりました。

帰国後、子どもたちが国内での生活をスムーズにスタートできるようにとの思いで、一つ一つの学校を訪問し、子どもをあずける親の立場で先生からお話を伺い、在学帰国生のインタビューも交え、学校の教育内容をできるだけ詳しくお伝えすることに重点を置いています。発刊後、すぐに学校選びの参考書としてそのユニークさが評価され、現在も海外赴任者のみならず国内の企業、教育関係の方々からも高い評価を得ています。

1984 年に初版の 1985 年度版「高校案内」を 4000 部発行。82 校を訪問。1987 年に中学校資料を掲載。

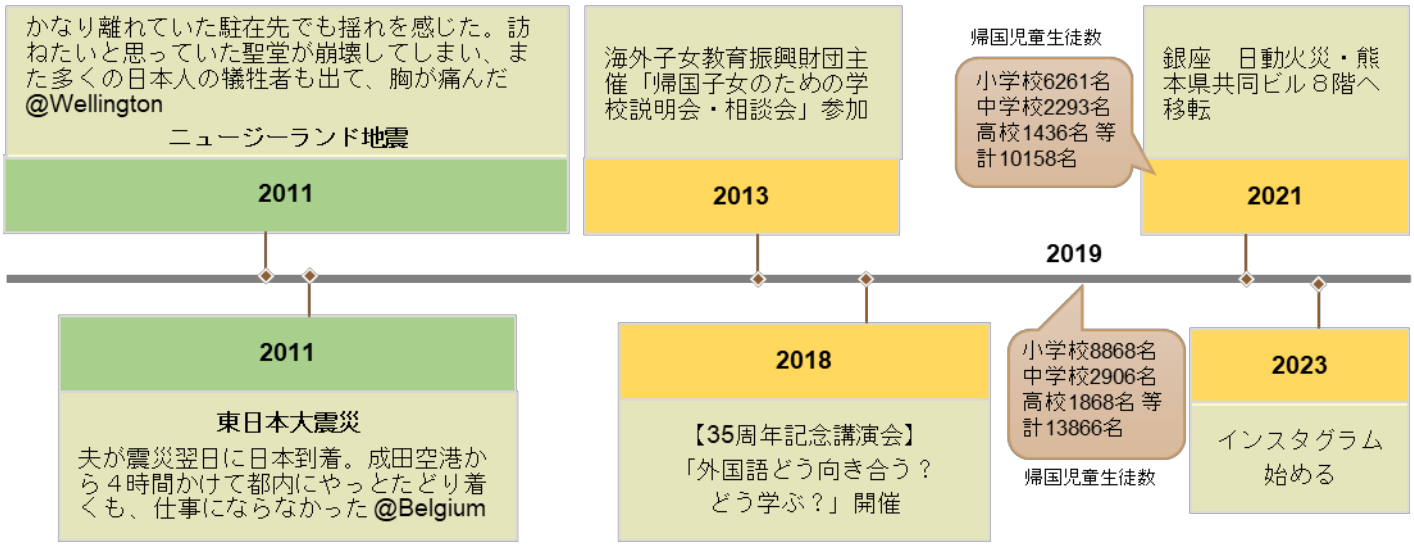
1992 年、大学案内を発行してほしいとの要望に応え「大学案内」を隔年置きに発刊しましたが、インターネットでの検索が普及し、2002 年に廃刊。

1999 年度版から「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内」と書名を変更し、中学校 105 校、高校 116 校を掲載。

2008 年度版からは小学校 40 校の情報も掲載。

海外で郵便事情の悪い国の方々にもご覧いただけるように 2014 年から PDF 版も発行しています。

「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 2024 年度版」では中高 280 校、(訪問記・レポート・詳細要項掲載 116 校)、小学校 44 校(レポート・詳細要項掲載 9 校)を掲載しています。



「学校案内」の作り方

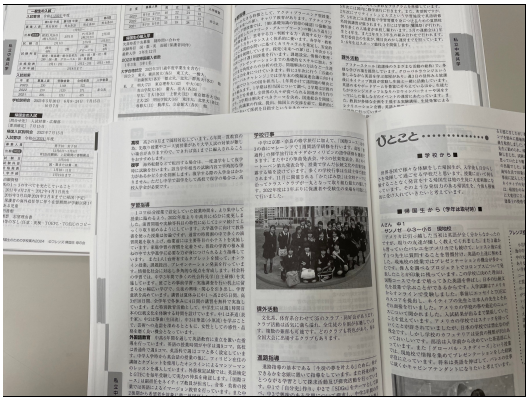
【学校訪問から皆様の手元に届くまで】

「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内」

「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内－首都圏版　中学・高校編」は、1984 年から毎年発行しています。今年は 2024 年度版を 9 月 18 日に発行いたしました。

帰国生入試実施または入試の際、帰国生に考慮のある中学校・中等教育学校・高等学校・高等専門学校、編入学で帰国児童を受け入れる小学校を掲載しています。この中で多数の帰国生が在学している学校にスタッフが訪問しています。先生からは帰国生の受け入れ態勢など、帰国生からは海外での生活や受験の様子、学校生活についてインタビューして作成した記事はたいへん好評を得ています。

各校の入試要項はインターネットで得ることもできますが、帰国生の入試結果や編入学の詳細など学校のホームページに掲載されていない項目も情報をいただいて記載しています。



制　作

2020 年の大改革

2020 年の年明けから日本で感染が広まった新型コロナウィルス感染症。フレンズでは 2 月末よりオフィスでの活動を自粛しました。毎年 4 月、前年の秋に発行した『帰国生のための学校案内』の掲載ページを各学校に郵送し、情報更新の依頼をしてきた本の制作には大打撃でした。学校も休校となり、例年どおりの作業が進められない中、スタッフの誰もが今年は発行できないと考えていたようでした。制作責任者として「学校のご担当者もわかっているし、何とかなるのでは」と考え、誰もいないオフィスに行って、本を裁断したすべてのページ、封筒ほか必要なもの一式を自宅に送りました。紙媒体以外に PDF 版を発行していることも救いでした。いただいた名刺やメールなどから先生方のメールアドレスを探し出してリストを作成し、無料で PDF を操作できるツールを利用して各校毎に PDF ファイルを分割、メールに添付して送ることにしました。メールアドレスを確認できない学校には郵送しましたが、原稿の返却はスキャンなどでファイルを作成し、専用のメールアドレスに添付してご返送いただくようお願いしました。こうしていつもより時間は掛かりましたが、全校に原稿依頼することができたのです。

取材と記事

『帰国生のための学校案内』は A4 サイズで 480 ページ前後、入試に帰国生枠があったり、考慮があったりする学校を 300 校ほど掲載しています。この中で帰国生の在籍者数が多い学校など、100 校ほどには取材記事があります。そのうち毎年 30 校くらいは新たに取材し、ほかの記事は先生方にご確認をお願いしながら 3 年間は再構成しています。2020 年は新型コロナ感染症による休校や学級閉鎖などで、例年 4 月から帰国生にもインタビューする公立校と私立校には取材が叶いませんでした。ただ、前年秋に説明会に参加したり、帰国生担当の先生からお話を伺ったりしたレポートと、コロナ禍直前に行った国立校の訪問記は新たな内容を掲載することができました。春にのみ学校の取材をしている他の地域のボランティア団体からも学校案内の発行をどうするのかとお問い合わせがありましたが、通年の取材が功を奏しました。ただ、この年に取材できなかった学校がたくさんあります。翌年からスタッフが例年よりも多くの記事を書くという頑張りでようやく元通りのローテーションとなってきました。コロナ禍になってからは関係者以外に対する学校の規制も厳しく、校内に入れないこともあります。フレンズでもできる限り学校のご要望に沿うよう、電話やオンラ

インでの取材、帰国生には作文依頼など、さまざまな取材の形を提案させていただいています。

先生に感謝

2019 年まではすべて紙ベース、先生方には赤ペンでの更新を依頼して郵送や FAX でやりとりし、スタッフもオフィスでペンを片手に行う作業が中心でした。自宅にて PDF ファイルでの制作作業となった当初、慣れない作業にフレンズスタッフも戸惑っていましたが、何より大変だったのが各校の先生方でした。リモート授業のための各家庭のオンライン状況などの確認に加えて、担当教科の授業準備と実施など、時間的にもタイトでとてもご負担が多いようでした。休校になると先生はフレンズが依頼する情報を取得することもできないのですが、そんな大変な状況でも真摯にご協力くださり、何度もご連絡をいただき、とても有難いと思いました。また、馴染みのなかった PDF ファイルへの加除修正に対応いただけない場合でも工夫して原稿を戻してくださったおかげで無事に刊行することができたのです。

怪我の功名

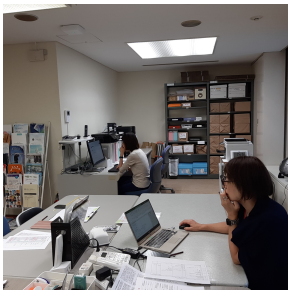
コロナ禍が少し落ち着いてきた現在でも PDF ファイルをメールでやりとりする制作作業を続けています。慣れてみると利点もたくさんありました。先ずは原稿の返却をオフィス以外でも確認できること。以前は原稿紙面がオフィスに返却されていましたので、オフィスでしか原稿の到着や内容の確認ができませんでした。現在は各スタッフが担当校と直接やりとりするため、タイムロスなく、質問もすぐにできます。制作責任者を通してやりとりする原稿には先に目を通して更新されていない情報を先生にお伝えしたり、次年度の要項が確定する日程などの情報が入ったり、制作工程もスムーズに進みます。一番の利点はお互いの手元にデータが残ることです。双方の疑問点も原稿を見ながら解決でき、書いた・書いていないなどの齟齬も生じません。以前はオフィスに原稿の束が山積みで、オフィスアワーはどのテーブル　にも原稿が広がっていました。そのため、原稿が他の学校ファイルに紛れてしまったり、届いた FAX に気付かなかったりしたこともありました。効率よく作業ができるようになった点はよかったと思います。難点は自宅での作業が増えたことでしょうか。現在はオフィスを閉じることなく活動ができていますので、オフィスでできるだけ作業を進めて行ければ、そのデメリットも改善できるのではと思っています。

今後の制作

コロナ禍により、学校説明会もオンライン、出願もオンラインが主流となりました。帰国生入試関連のさまざまな情報もインターネットで確認できる時代に、紙ベースの「学校案内」は不要では？とするご意見もあると思います。ただ、帰国生入試や編入学のご相談の際、学校を探す時に 1 冊に情報がまとまっていることは何と言っても便利なことを実感しています。帰国入試を考えている方々もこれほど多くの学校が受け入れていることをご存じないのではないかと思います。逆に、英語での学習さえ進めていればどの学校にも帰国編入できるとした考えが違っていたことに気付かされるのではないでしょうか。帰国生は在外地での学校の種類も教育も環境もそれぞれ異なり、日本でずっと暮らしてきた子どもたちと同じような学校選びではそれぞれに合った学校が見つけられないかもしれません。実際にそうした帰国生も多数見てきました。有名な校名だけで学校を決めず、いろいろな学校を訪ね、お子様が 3 年間或いは 6 年間を過ごしたい学校を見つけ、充実した学校生活を送っていただけることを願い、『帰国生のための学校案内』を作り続けたいと思います。

コロナ禍により発達したリモートワーク。便利なツールを上手に使ってより良い作業をしながら本を仕上げることを模索していきます。

コロナ前↓／コロナ後→



コロナ禍でのリモートワークで一気にペーパーレス化が進みました

販　売

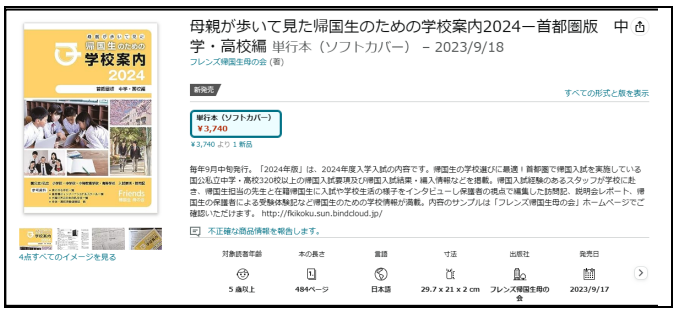
帰国した子どもたちの学校選びの助けになるようにと思い、スタッフ全員で学校案内の本を作成していますが、必要とされる方々への周知がまだまだ行き届いていないことが、販売を担当するも

のとしての悩みです。

2012 年から PDF 版の販売を、2018 年からアマゾンでのインターネット販売を開始するなど、販売方法に新たな試みを取り入れています。

本は海外へも送りますし、海外書店でも扱っていただいています。海外への発送は到着までに日数が掛かりますが、予め受験準備のために購入するのであれば問題はありません。10 年程前、ある海外在住の方に突然の帰任の辞令が降り、お子さんを日本の学校に急遽編入せざるを得なくなったことがありました。これを機にすぐに届けられるものをと PDF 版の販売を考えるようになりました。特にコロナ禍では海外へ本を送る手段としての海外便が激減し、発送を取り扱う業者の減少や配達にかなりの日数が掛かることもあり、PDF 版での購入をお勧めしました。ただ、PDF 版では安全上の問題も考慮して、インタビューにご協力いただいた各校の帰国生の写真は掲載していませんので、学校での帰国生の雰囲気は少し伝わりにくくなっています。また、国公私立などカテゴリー別のファイルとしてお送りしても、300 校以上の学校を 500 ページ近い本から PDF の状態で探していくのもなかなか大変です。やはり書籍の方が学校を探しやすく、気になる学校に付箋を付けるなど活用しやすいと思いますので、海外在住の方もお急ぎでなければ一時帰国の際にお求めになることをお勧めします。

国内の個人からのご注文は、クレジット決済が手軽にできるアマゾンでの購入が大幅に増加しました。フレンズのオフィスからまとまった冊数をアマゾンの流通センターに直接納品をしており、購入者の他の注文品と一緒にアマゾンからお届けできるのも利点の一つだと思います。



アマゾン注文画面

一方、日本の書籍を扱う海外の書店との取引がだんだん少なくなりました。また国内においては東京駅八重洲口の八重洲ブックセンター、神保町の三省堂書店など大型書店の建て替え計画に見られる通り、新店舗では書籍のみを売る店舗から複合店舗に変わるなど、書籍を取り巻く環境が大きく変化しています。

書店での販売

ひとりでも多くの方にフレンズの学校案内を手に取っていただけるよう、今後も更なる販売促進の方法を模索していく所存です。

広　告

『帰国生のための学校案内』は、長年にわたり帰国生のご家庭だけでなく、企業人事部のご担当者の方にもご好評をいただいています。2013 年（2014 年度版）から紙面の拡充を図るため、巻末に広告の掲載を始めました。その際、帰国生のサポートに力を入れている学校や企業に広告の掲載を依頼しました。

帰国生入試を実施している学校の広告には、各学校のホームページや QR コードを記載しています。学校のホームページにアクセスすることにより、学校説明会、文化祭、試験の日程や内容、生徒たちの学校生活の様子など、より詳しい情報を確認することができます。

帰国生の教育相談、学校説明会、外国語保持教室をしている団体、帰国生入試向けの対策授業を開講している塾などは、本章で紹介をしていないので、広告をご覧になって情報を得ていただける機会となっています。過去には、学生寮を運営する企業などの広告も掲載していました。

帰国生の様々な事情に対応してくださる学校や企業の広告は、たいへん有益な情報となっています。今後もたくさんの帰国生に役立つ広告を掲載していきたいと考えています。

例年 5 月の上旬頃に広告募集のご案内を発送しています。A4 紙面の半ページ、1 ページ、見開き 2 ページの広告紙面でお申込をいただいています。

より多くの帰国生たちが、本章と併せて広告をご覧になり、イメージを作り上げて帰国生入試に臨める助けとなるよう、今後も紙面作りに努めて参ります。

宣　伝

インターネットが普及していない頃は、各国のフリーペーパーや新聞などに学校案内の宣伝を無料で掲載してくださるかを伺い、ご快諾いただいたメディアを通して毎年『帰国生のための学校案内』の宣伝をしていました。現在もそれらのメディアに掲載をお願いしていますが、インターネットの時代にあってはより効率的に宣伝するために 2018 年からグーグル広告を利用しています。有料ではありますが、世界各国にいる帰国受験に興味のある方をターゲットにして宣伝できるので、効果的です。ただ、学校案内の本の対象者の特殊性からか、グーグル広告が勧める最適化案で宣伝しても思うような効果が出なかったりするので、独自の宣伝方針などを探らなければならないのが目下の課題です。

本の広告を掲載いただいている媒体

また、「学校案内やご相談など、フレンズの活動を日本国内や海外に住む方々にもっと知っていただきたい！」との思いから、2023 年 4 月にインスタグラムを始めました。海外にいると学校に関する情報などを聞くのが難しいことを経験から実感しています。世界中にこの情報満載の学校案内が届き、多くの方々に、学校選びのお役に立てていただけると自信を持って紹介しています。ご購入いただいた方から、「親子で読みます。必要な情報が詰まった良い本です」というお言葉をいただいたこともあります。これからもこの本の存在を知ってご活用いただけることを希望し、発信していきたいと思います。

～毎年本をご購入いただいている早稲田アカデミーよりメッセージをいただきました～

「母親の視点」の大切さ

株式会社早稲田アカデミー 国際部 田畑　康

「フレンズ帰国生母の会」設立 40 周年おめでとうございます。

これまでにたくさんのスタッフの方々が、ご自身の海外での子育て経験をもとに会の一員となり、40 年という長い活動の歴史を紡いでこられたこと。そしてその歴史の中で多くの帰国生ご家庭の教育や、子供の将来を思うお母様お父様の気持ちに寄り添い、支えてこられたことは、尊敬の念に堪えません。

早稲田アカデミーですが、まずは「国際課」という小さな部署ができ、帰国生の受験指導を本格的に始めてから 20 年になります。（2017 年には「国際部」を設置し、現在に至ります）早稲田アカデミー小・中学部の集団校舎は首都圏に約 170 校舎ありますが、現在では合計で 1,000 名以上の帰国生が在籍しています。その 170 校舎に標準設置されている受験資料の一つに、「フレンズ帰国生母の会」が発行する情報誌『母親が歩いてみた帰国生のための学校案内』があります。

私たち塾講師は帰国生が入試に合格するための訓練を担当するわけですが、『学校案内』は掲載されている学校数も多く一校一校の情報が満載で、「母親」の視点で綿密に取材されているため、「どんな学校がどんな帰国生指導をしているか」という情報については右に出るものがないといえます。早稲アカ生の保護者はおろか、指導する私たちにも参考になる情報がたくさんあり、毎年この一冊の本に幾度となくサポートいただいています。早稲アカの帰国生指導の歴史は、この本とともにあるといっても過言ではありません。

新型コロナウイルス蔓延下におかれましては、貴団体オフィスや学校自体の閉鎖をはじめ、取材や執筆においてたくさんのご苦労をされたと思います。それでも休刊されることなく本を発刊いただけましたのは、スタッフの皆様の強い結束力と情報を伝えたいという強い気持ち、さらに学校関係の方々からの厚い信頼によるものであると思います。

これからの益々のご発展を、心よりお祈り申し上げます。

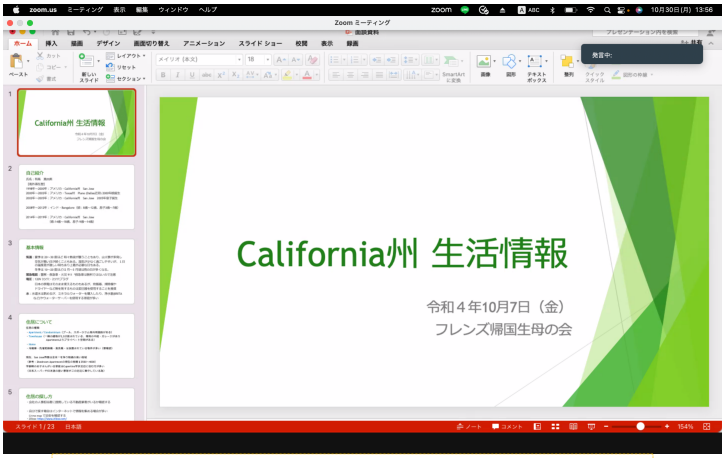
～海外赴任前セミナー～

海外生活が始まる、そう決まった時、まず何から手を付ければよいかと途方に暮れる方もいらっしゃるでしょう。引っ越し準備に加え、現地の治安、家探し、買い物、医療、お子さまがいらっしゃれば、学校選びのことなど、調べることやすべきことが沢山あります。海外赴任前セミナーでは、私たちの海外生活体験をもとにお話しします。ただ、私たちが一方的に経験をお話しするのではなく、まずはご相談者のご不安やご心配が少しでも解消されるよう、ご相談者のお話を伺いながら進めます。

そのためにも、担当者を決める際には少々時間を要します。赴任前セミナーのお申込みをいただいたら、まずご相談者の赴任についての詳細を確認します。勿論、個人情報の取り扱いには常に細心の注意を払います。そして、赴任先、時期、期間、帯同家族、海外赴任経験の有無、ご質問内容などを拝見し、できるかぎりご相談者に合った担当者を検討します。例えば、お子さまの学校に関して、担当者の子どもの通学歴（日本人学校、現地校、補習授業校、インターナショナルスクール）や年齢も考慮に入れます。インターネットの普及によりあらゆる情報が入手でき、ともすれば、SNS の情報だけで海外生活の準備はできる時代となりました。しかし、実際にその地で暮らした体験者と一緒にお話しすることで、現地の生活のイメージが湧きやすくなり、ご相談者（のご家庭）に合う選択肢が増えるかもしれません。私たちは、「これを知っていたらよかった」と、思うことや失敗談をお話しすることもあります。

セミナーが終了する頃にはご相談者の表情が明るくなり、「海外へ行くことが楽しみになりました」とおっしゃってくださるご相談者のお声が私たちの励みにもなっています。

赴任前セミナーは、賛助企業様のご依頼により、個人またはセミナーの形式で、オンラインで開催しています。コロナ禍でそれまでの対面からオンラインへの移行を余儀なくされましたが、オンライン開催に向けて何度も検討を重ね実現に至りました。今後はご要望に応じてオフィスにて対面でもお受けするなど検討して参りたいと存じます。



オンラインになってからは、現地の様子を説明するパワーポイントを作るなど、工夫を重ねています。

さまざまな時代の変化とともに昨今は、「夫の赴任」だけではなく、「妻の赴任」も増えてきているようにも感じます。新しい環境での仕事、仕事を辞めて（あるいは休職して）同行し、さまざまな形でキャリアを積み重ねるご家族、慣れ親しんだ学校を転校するお子さま、皆それぞれの思いを胸に新たな生活のスタートです。実体験に基づく確かな情報を得て、安全に、そして健康で有意義な海外生活を送っていただきたいと願い、セミナーを行っています。

赴任前相談の際お渡ししている資料一式。オンラインの場合は郵送しています。面談はなるべく地域密着の情報を、これらの資料は海外生活全般で役立つ情報をお届けしています。

～賛助企業より～

長年賛助企業としてご支援いただくと共に、赴任前セミナーもご利用いただいている企業の方からお言葉をいただきました。

日本製鉄株式会社

人事労政部 人事室長　香川 昌範

この度は、創設 40 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

弊社は 2015 年より海外に帯同するご家族向けに、海外で生活する為に必要な情報の提供と、不安を解消頂く場として、帯同家族研修を実施して参りました。

開始当初から、当社帯同家族と貴会の駐在経験のある方との相談の場を設けさせていただき、これまでに約 230 名のご家族からの相談に対応していただきました。実際に駐在経験のある方ならではのきめ細かなアドバイスは大変貴重で、参加者は親身に相談に乗っていただき不安が和らいだ等、感謝しております。これもひとえに、「海外や帰国後の体験を個人のものとして終わらせることなく、海外へ行く方々、帰国する方々と情報を分かち合い、子どもたちの教育、さらには子どもたちを取り巻く社会の在り方などを共に考える」という活動方針のもと、取り組んでこられた貴会の皆様お一人お一人の高い志の賜物と感謝申し上げます。

これからも、こうしたご家族に寄り添ったご支援を宜しくお願い申し上げます。結びに、貴会の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

花王株式会社

人財戦略部門 社員サービス部　山田琴恵

フレンズ帰国生母の会創立 40 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。フレンズさんには弊社の海外赴任者・帯同家族への赴任前セミナー講師として、また日頃より帯同家族の個別相談にもご対応いただき大変感謝いたしております。

弊社は現在海外赴任者と帯同家族含めて約 400 名が海外 38 拠点に滞在しておりますが、海外赴任前の不安を解消し滞在先で安心して活躍できる環境づくりを実現する為、東京海上日動火災保険株式会社・東京海上グループ会社と弊社人財戦略部門とで毎年 12 月に「海外赴任前安全対策セミナー」(現在は Web)を共催しており、フレンズさんには帯同体験者の立場から、海外赴任に関する心得や準備等お話しいただいております。実際に海外滞在中に経験された困った事やお子様の学校生活など具体的なお話は赴任者家族にとって大変参考になり毎回好評でございます。

その後個別に Web にて質問対応いただき、赴任者や帯同家族にとって相談出来る窓口があることは大変心強く有難く存じます。

これからも海外赴任される方々へ安心をお届けくださいますようお願い申し上げます。

フレンズさんのこれまでの 40 年の経験を活かし、益々のご発展とご活躍をご期待申し上げます。

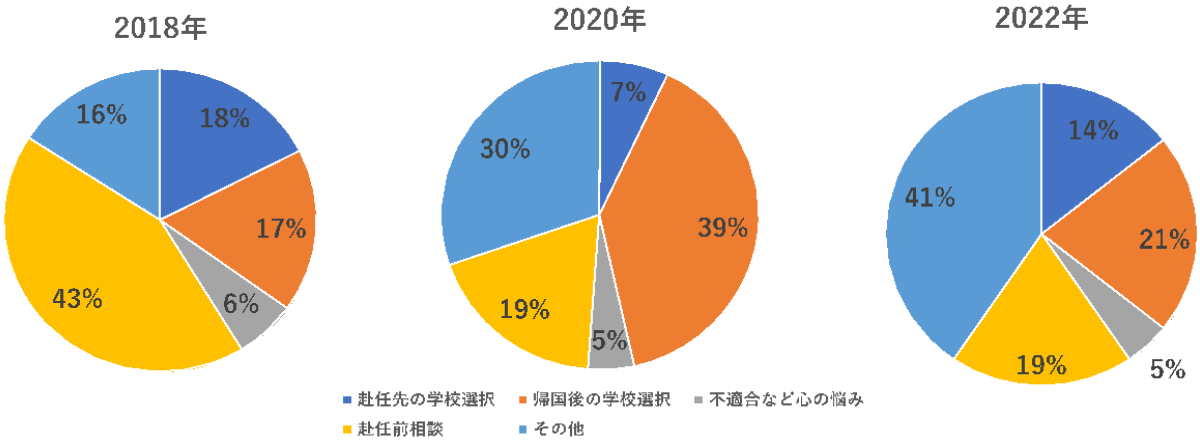
― 近年の相談の傾向について ―

フレンズでは、設立当初から帰国生受験、海外赴任に関する面談、電話、E メールその他様々な相談に応じています。今回は 2018 年 4 月から 2023 年 3 月まで新型コロナウイルス感染拡大前からコロナ禍までの 5 年間の面談や相談の内容をまとめてみました。

過去のフレンズだよりで掲載された、当時の面談・相談報告と比較すると、以前より相談件数が年々減ってきていることが分かります。考えられる理由として、インターネットの普及により過去と比較して、様々な海外赴任及び帰国生受験情報が容易に取得できるようになったからだと思われます。しかし情報量が格段に多くなったことで、それぞれが抱える悩みは情報を得ただけでは各家庭で解決することが難しくなり、その結果フレンズに個別相談を希望され、意見を求める案件が見受けられるようになりました。また、メールや電話での相談が増加したのは、わざわざ出かける必要がなくちょっとしたことでも気軽に問い合わせできること、また海外からでも早く交信できることが理由だと思われます。

2018 年（コロナ前)、2020 年（コロナ禍)、2022 年（コロナ収束）のグラフで分析しました。

過去5年間フレンズに寄せられた相談内容



新型コロナウイルス感染拡大により、2020 年度から、今まで対面で行っていたオフィスでの個別面談方法に加えて、Web 会議システムによるオンラインでの面談も行っています。

上記のグラフを考察すると、2018 年度の相談で一番多かったのは赴任前相談でした。渡航前の相談は大きく分けて、一般的な生活情報と現地の学校選択に関するもので、後者は現地校・インター・日本人学校の選択に関するものが大部分です。最近の傾向として、事前にある程度情報を得た上で、現地校（公立か私立か）やインター（英国系か米国系か）などの具体的な情報を求めるものが増えています。また赴任前から帰国後の受験を考えるなど子どもの教育に関する相談が多く寄せられています。

2020 年はコロナ禍による緊急帰国に伴う日本の学校選択、高校編入情報相談等帰国後の学校選択に

関する相談が特に多く、帰国後の相談は帰国受験や言葉の保持、不適応など子供の学校に関することに尽きます。

2022年は新型コロナウイルス感染拡大が下火になりつつあり、企業の海外赴任が再開されたからか、赴任先の現地情報、学校選択に関する相談が多くなっています。

また、その他の相談の中身は海外赴任する前に帰国のタイミング、中高生の子どもを帯同させるか、赴任中の日本語教育等多岐に渡っています。相談を利用する保護者の悩みは子どもたちが海外でも国内でも、学校生活にスムーズに適応できるか否かに集約されます。

赴任地についての情報は事前にインターネットで得ることができますが、実際に体験した赴任者から様々な情報を得ることも極めて大切なことだと思います。多くの海外赴任の方々にフレンズの活動を知っていただき、是非ご利用いただきたいと思います。

フレンズでは常に面談に際し「あくまでも海外生活体験者の一人として、共に不安や悩みを語り合い考え合う」という姿勢で臨んできました。そしてケース毎に最も適切な情報を提供し、経験を通してのアドバイスができるよう、及ばずながら各人が心掛け、これからもこの姿勢を忘れずに取り組んでいきたいと思っています。

対面（左）とオンライン（右）の面談の様子

『海外赴任ガイド』では、海外赴任に伴う各種手続きや、子どもの教育、引越準備、医療対策など出発前に知っておくべき知識と情報、異文化生活の中で安全・快適に暮らすための知識とノウハウ、日本への帰国の際の各種手続きから帰国後の住まいや子どもの進学先に至るまでの海外赴任に関する諸情報を掲載しています。また赴任者様のお車の買取もサポートしており、出国当日の空港でのお車の引取が可能です。

・創刊37年！延べ100万人以上の海外赴任者をサポート
・年間約4万部発行
・赴任の準備から現地の暮らしまで海外赴任に必要な情報満載
・海外赴任の準備内容が一目でわかるチャート・チェックリストを収録
・先輩赴任者のリアルな声をコラムで掲載

海外赴任者のバイブルといえば

海外赴任ガイド

海外赴任ガイド　検索

各種手続き、教育、引越、
医療など出発前に知っておくべき
知識と情報を網羅！

海外出国前のお車売却

海外赴任時専門の車買取
出国直前まで乗れる！
マイルもたまる！

JAL マイルがたまる

車売却ご相談

フリーコール 0120-322-755

Webからのお申し込みもできます!

株式会社JCM　全国対応可能！離島　沖縄は除きます。

本社：東京都千代田区神田錦町3-13

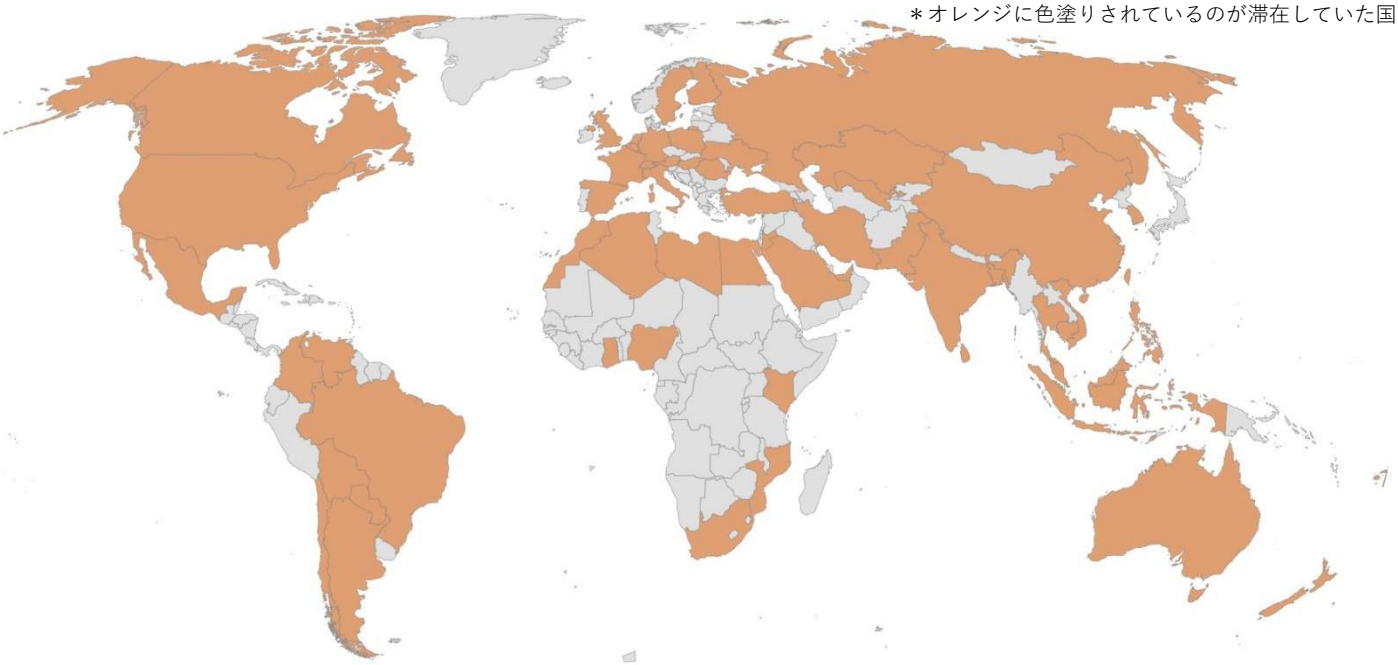
JCMは皆様の愛車をオークション・業販等を通じて業界に供給する会社です。

<個人情報の取扱いについて>・お客様からお預かりした個人情報は、本サービスを円滑・的確に提供するために利用し、ご本人の了承を得ずに第三者への開示・提供や目的外での利用はいたしません。
詳しくは　http://www.jcmnet.co.jp/common/privacy.htm　をご確認ください。
【個人情報取扱いに関する問合わせ先】㈱JCM 流通事業部　ryutsu@jcmnet.co.jp

RJ2310

フレンズのスタッフが過去に滞在していた国

＊オレンジに色塗りされているのが滞在していた国



＊一名のスタッフが複数国に滞在していたケースもあり、数字は延べ人数を示す。人数には旧スタッフも含む。

アジア インド 4（ニューデリー、ムンバイ、バンガロール） インドネシア 11（ジャカルタ） ウズベキスタン 1（タシケント）
カザフスタン 1（アスタナ） カンボジア 1（プノンペン） 韓国 2（ソウル） シンガポール 24 スリランカ 2（コロンボ）
タイ 22（バンコク） 台湾 5 中国 39（廈門、上海、深圳、蘇州、大連、北京、香港） バングラデシュ 2（ダッカ）
パキスタン 4（カラチ、イスラマバード） フィリピン 2（セブ、マニラ） ベトナム 3（ハノイ、ホーチミン）
マレーシア 8（クアラルンプール）

アフリカ アルジェリア 1（アルジェ） エジプト 4（カイロ、スエズ） ガーナ 2（アクラ） ケニア 2（ナイロビ）
コートジボアール 1（アビジャン） ナイジェリア 1 南アフリカ共和国 2（ヨハネスブルグ） モザンビーク 1（マプト）
モロッコ 1（タンジェ） リビア 1（トリポリ）

北米（アメリカ合衆国以外） カナダ 9（カルガリー、トロント、バンクーバー）

アメリカ合衆国 コロンビア特別区 9（ワシントンDC） アラスカ 1（アンカレッジ）、イリノイ 14（シカゴ、シャンペーン）
オハイオ 6（クリーブランド、シンシナティ他）
カリフォルニア 44（サンフランシスコ、サンノゼ、サンディエゴ、ロサンゼルス、バークレー、モントレー）
サウスカロライナ 1 ジョージア 2（アトランタ） テキサス 14（オースチン、ダラス、ヒューストン） テネシー2（メンフィス他）
ニューハンプシャー16（ハノーバー） ニューヨーク、ニュージャージー、コネチカット 41（ニューヨーク他）
ノースカロライナ 1（ローリー）、バージニア 2（ブラックスバーグ、ロマノーク）
ペンシルベニア 8（ニューキャッスル、ピッツバーグ、フィラデルフィア） マサチューセッツ 5（ボストン）
ミシガン 8（デトロイト、ノバイ他） ワシントン 4（シアトル） グアム 1

欧州 イギリス 34（ケンブリッジ、サリー、ロンドン） イタリア 6（ミラノ、ローマ） ウクライナ 1（キーウ） オーストリア 4（ウィーン）
オランダ 5（アムステルダム他） スイス 5（ジュネーブ、チューリヒ） スウェーデン 3（ストックホルム）
スペイン 3（バルセロナ、マドリッド）
ドイツ 21（シュトゥットガルト、デュッセルドルフ、ニュルンベルグ、ハンブルグ、フランクフルト、ブレーメン、ベルリン、ミュンヘン）
ハンガリー3（ブダペスト） フィンランド 1（ヘルシンキ） フランス 11（アミアン、コルマール、パリ、モンペリエ、レンヌ）
ベルギー7（ブリュッセル） ポーランド 2（ヴロツワフ、ワルシャワ） ルーマニア 3（コンスタンツァ、ブカレスト）
ルクセンブルク 1 ロシア 1（モスクワ）

中東 アラブ首長国連邦 6（アブダビ、ドバイ） イラン 3（テヘラン） サウジアラビア 3（アルコバール、ジッダ、リヤド）
トルコ 1（イスタンブール）ヨルダン 1（アンマン）

大洋州 オーストラリア 14（アデレード、キャンベラ、シドニー、バース、メルボルン）
ニュージーランド 1（ウェリントン、オークランド） フィジー1（スバ）

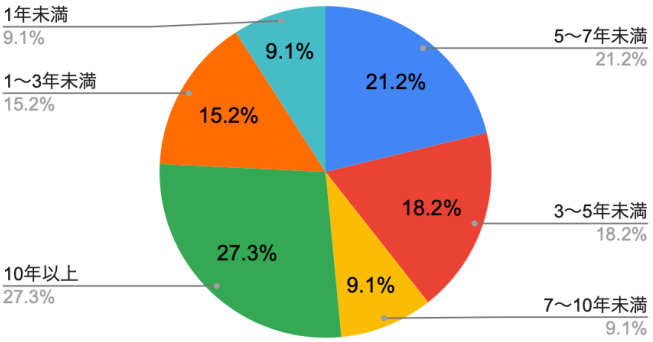
中南米 アルゼンチン 2（ブエノスアイレス） コロンビア 3（ボゴタ） チリ 2（サンディエゴ） パラグアイ 1（アスンシオン）
ブラジル 15（サンパウロ、ブラジリア、ベロオリゾンテ） ベネズエラ 1（カラカス） ボリビア 1（サンタクルス）
メキシコ 2（メキシコシティ）

【アンケート】

フレンズスタッフ・旧スタッフに聞きました！

「スタッフ歴」

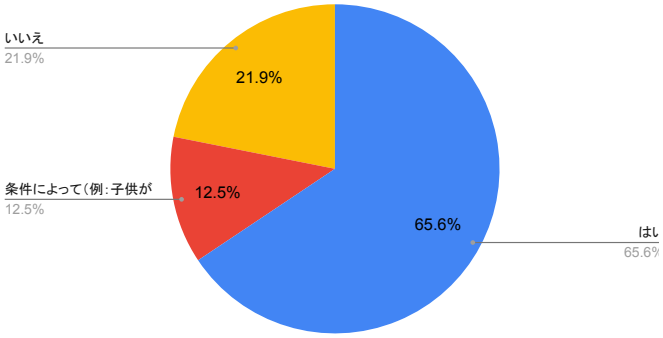
（回答者数：33 名）



スタッフの 27%は 10 年以上在籍
一方でコロナ後に入会してくれたスタッフも 24.5%。こうして改めて表にして見ると、バランス良く構成されているように思います。
最近は帰国後フルタイムで社会復帰される方も増え、なかなか週 1 回の活動に参加いただける方を探すのが難しくなっていると感じます。一方で「リモートワーク中心なら」や「時短でよければ」、と言って、お仕事を持っていたり、まだ子育て真っ只中で忙しい方が参加してくださるケースも。時代に合わせ募集、参加形態の多様化を進める必要もありそうです。

「赴任地に戻りたい？」

（回答者数：32 名）



「はい」と答えたスタッフが 66%。会のスタッフの多くは赴任地での経験をプラスに捉えているからこそ、これから行く人たちの赴任を応援する気持ちが強いのかも知れません。

「条件によって」と回答した人

・気軽に日本と行き来ができれば
・老齢の両親の心配がなければまた赴任したい
・赴任ではなく、思い出巡りをしてみたいです。子育て真っ最中だった当時の自分と今の自分では空気の匂いも感じ方も違うはず。それを実感したい。

フレンズに入ったきっかけ

1 位：フレンズの活動を知り、興味を持ったから
2 位：学校訪問で子どもがインタビューを受けたこと
3 位：友達に誘われた
その他：・赴任前に相談に乗ってもらった
・赴任先の本屋で購入した「学校案内」の内容に感動して

【銀座オフィス】

フレンズに入って良かったこと

1 位：自分の経験が誰かの役に立っていると実感できたこと
2 位：新しい出会いに恵まれたこと
3 位：スタッフと経験を共有できたこと
4 位：海外の思い出話を気兼ねなく話せたこと
その他　・赴任地や受験の情報をアップデートしているので経験が過去のものにならないこと
・週 1 回、銀座に来られること
・PC スキルが自然と向上したこと

フレンズの活動で印象に残った出来事・エピソード

学校訪問にまつわる思い出、エピソードが多かったです。中でもインタビューで出会った生徒さんからたくさんの刺激や感動をもらっているようです。

・「最初は海外行くのが嫌だったが今は父に感謝している」という言葉に帰国生の親として胸が熱くなった
・生徒さんが皆しっかりと自分の意見を述べてくれることに感動した
・生徒さんのキラキラした未来を聞くことができるので、訪問が毎回楽しみ
・在外地への支援活動をしている生徒に出会い、そのエネルギーと行動力に感動した

面談を引き受けた際のエピソードも♪

・不安そうだった相談者が１時間の面談を終える際「行くのが楽しみになってきました」「不安が払拭されて安心しました」などと言ってくださった時、とてもやり甲斐を感じた
・面談中、思い詰めたように涙を浮かべる方がいらしたこと。自分の赴任前の不安だった思い出と重なり、少しでも力になれたのなら嬉しいと感じた

その他の活動での思い出

・文科省の在外教育施設派遣教師等研修会に講師として参加した時、赴任中に日本人学校でお世話になった先生方と再会できたこと。また、これから同じ日本人学校に赴任される先生方が「世界一の日本人学校を目指して頑張ってきます！」と私を囲んでお話してくださったこと。
・特に印象に残っているのは文部科学省主催のフォーラムへの参加と新聞社から取材を受けたこと。多くの方に支えていただいていることを実感し感謝し、励みになった。

海外ならではの苦労話

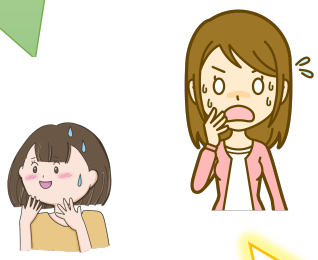
【生活編】

・スカンクをはねてしまい、何度洗車をしても２週間以上匂いが取れず、近所に迷惑をかけた
・電球が壊れたので交換を頼んだら、海外から取り寄せるので３ヶ月かかると言われた
・アメリカでは宅配荷物がいつ届くかわからないので、不在票が入ったら郵便局に留置にしてその都度取りに行った
・医療水準が低く、日本では町医者でも治るような軽い怪我でも帰国せざるを得なかった
・庭にある大きな木の根っこが伸びてしょっちゅう下水道が詰まって大変だった
・家の貯水タンクが小さくて湯船に湯を張ることができなかった
・-20℃の中、広大な屋外駐車場で自分の車が見つけられず死ぬ思いをした
・渋滞がひどく、30分で10mしか進まないようなことがよくあった
・子どもが小さいときは旅先での食事が合わないこともあるので炊飯器、米、海苔、ラップを持参して困ったときには を作っていた

【習慣編】

・時間に対する感覚が違うと感じることが多かった。修理や配達は時間通りに来ないことが多かった
・スーパーやデパートのレジがとにかく遅い！なんでも「レジのおしゃべりもコミュニケーション」だそう
・ロンドンにいた頃。家の修繕が約束の時間に来ず、子どもの送迎のため仕方なく出かけて帰ってきたら見知らぬ男がキッチンに！不動産屋から鍵を借りて勝手に入って修繕していたのにはびっくりした
・期日までに荷物が届かず、連絡したら電話を切られ、その後繋がらなくなった
・ガスコンロの修理に来た作業員、コンロは直したがその際、オーブンの電線を切断してしまい、今度はオーブン修理を頼むことに…
・異なる宗教を信じる人々が混在するインドでは、それぞれに祝日や行事があり、暮らし始めた頃はそれらを覚えるのに苦労した

活動での失敗談



生徒さんとの会話を楽しんでしまい、たくさんインタビューした気になって帰ったら記事にするのに必要な情報が十分ではなく焦った

訪問記のフォーマットを間違えていたことに気づかず、完成後にかなり描き直したこと

録音を忘れていたこと。途中で気づいたけどすごく焦った！

時間を気にせず話してしまい、学校の閉門時間になって専用口から退出したこと

先生へのインタビューの際、録音を断られた💦「プロなら録音なしで」と言われ、プロではなくボランティアであることを説明してなんとか録音させてもらった

企業の赴任前相談に出向いた際、スタッフの１人はオンラインで参加することに。現地で繋げようと思ったら、企業のセキュリティが厳重すぎてつなげられなかった

フレンズの今後について期待すること

・これからも赴任前・帰国後の方のお役に立てる活動が続けられたら嬉しい
・経験者が実際に学校訪問して記事を書くという取材方法はとても珍しいと思うので今後も続けていければと思う
・経験者として、悩んでいる方たちへの一助であり続けてほしい
・海外生活と帰国後の生活の違いを良い経験として活かせるよう活動をしていきたい
・発足時の理念を大切にしながら、時代に合わせて進化を続けていってほしい
・現状に即した活動内容の促進と工夫をしていきたい
・たくさんの人に関わってもらいたい
・SNS を使ってもっと学校案内を周知し、必要な人に活用してもらいたい
・赴任する家族が安全・安心で楽しい生活を送れるよう情報提供していきたい
・ワークショップやイベント開催など、新たな取り組みに挑戦していきたい
・帰国生の相談窓口やコミュニティ作り
・40 年が経過した現在、受け入れ校は増え帰国生への理解も対応も進みました。しかし海外赴任者にとって日本の高校進学は未だにネックとなっています。高校受験のために家族で過ごす貴重な海外体験を諦めたり、父親を残して母子のみで帰国するなど、問題は変わっていません。過剰な受験競争、多大な教育費による格差、不登校の増加など多くの問題も抱えています。問題改善の一歩として、帰国生に限らず、すべての子どもたちが高校まで安心して勉学できる体制、高校までの義務教育化の実現を提言したい

フレンズだより 40 年の振り返り

機関誌「フレンズだより」では、帰国生を取り巻く教育や海外での学校体験、海外赴任や帰任に関することなどさまざまなテーマを特集し、お届けしています。
発行は 6 月、12 月の年 2 回。
1984 年 2 月創刊、今号で 81 号となります。
1984 年 6 月の第 2 号には「海外勤務者子女教育に関する要望書」を文部大臣（当時）にお会いして手渡ししたことが書かれています。2017 年 6 月号から白黒印刷の冊子からカラー印刷となりました。

国内外から、専門家、駐在員、帰国生などさまざまな方に支えられ続いてきたフレンズだより。その変遷をお届けします。

創刊号(1984年2月20日発行)

手書きの学校新聞のような感じ

第2号(1984年6月10日発行)

「海外勤務者子女教育に関する要望書」
文部省・東京都教育庁（当時）に提出

第２号　学校訪問

1校目は啓明学園
2校目は国際基督教大学高等学校

第16号(1991年6月1日発行)

文中にも写真が入るように

第30号(1998年6月1日発行)

中学・高校の転編入情報を掲載(第22号から)
公立校の情報も充実

第35号(2000年12月1日発行)

コラム「海外レポート」登場！
お父さんの寄稿も

第37号(2001年12月1日発行)

「子供の声」(第44号まで)「親のエッセイ」(第46号まで)
「社会に巣立った帰国生」(第69号まで)

第68号(2017年6月1日発行)

カラーに！

第70号(2018年6月1日発行)から

「頑張る帰国生」シリーズ
スタート

その他の
特集は…

特集(寄稿編)

翻訳家、ベンチャー起業家、高校生、区議会議員、
ラグビーW杯運営関係者、ギャラリー店主など海外とかか
わりのあるたくさんの方々に寄稿していただいています

特集(スタッフ編)

海外の生活や教育にまつわるテーマを
集めています

～その他のフレンズの活動～

【シンポジウム・講演会】

フレンズでは帰国生の問題を広く皆様に知って頂き、語り合う場としてシンポジウムや講演会を開催してきました。1983 年初回は他団体との共同開催でしたが、1987 年以降、東京海上日動（株）様のご支援で会場をお借りし、フレンズ単独での主催でその時々の問題点をテーマに開催致しました。多くの方々のご協力・ご参加を得て、報道機関にも取り上げられ、企業、教育関係者の方々にも問題提起をし、改善点など提言して参りました。帰国生に限らず、日本の子ども達にとってのより良い教育環境について今後も皆様と共に考えていきたいと思っています。

シンポジウム

1983 年 「帰国生は今」を他団体と共同開催
1987 年 第 1 回「父と子の体験から」
コーディネーター日経新聞論説副主幹 宮智宗七氏 パネリスト 7 名 参加者 300 名
1988 年 第 2 回「異文化体験をどう生かすか」
1989 年 第 3 回「私達にとっての海外教育とは」
1990 年 第 4 回「帰国子女と就職」
1991 年 第 5 回「いま、アメリカで何が起こっているか」
1993 年 第 6 回「日本人学校の今、そして、これから」
1995 年 第 7 回「補習授業校に求められるもの」
1996 年 第 8 回「非英語圏に暮らす日本の子どもたち」
1998 年 第 9 回「帰国生と考えるこれからの学校」
1999 年 第 10 回「海外転勤、その時高校生は」
2003 年 第 11 回「異文化体験からの発信－帰国生は何を伝えたいのかー」
2005 年 第 12 回「家族の風景 2005－海外体験者が感 じたことー」
2009 年 第 13 回「社会に巣立った帰国生－グローバル社会で奮闘する彼らー」

講演会

2001 年 第 1 回「海外で育つ子どもの[言葉の力]
ー家庭で何ができるのかー」
国立国際研究所日本語教育部門第一領域長
文部科学省国際教育課海外子女教育(併任)
石井 恵理子氏
2006 年 第 2 回「海外赴任による家族の心のケアについて」
臨床心理士 久保田 須磨氏
2012 年 第 3 回 第 1 部「今、知っておきたいアジア～企業の進出に伴って～」
外務省地球環境問題担当大使堀江正彦氏
第 2 部「今、伝えたい、海外でいざというとき何を・・？～赴任者の体験から」
フレンズ 帰国生 母の会 スタッフ
2014 年 第 4 回 [海外での安全を考えるセミナー]
「まさか！の時ではもう遅い！！～海外におけるリスクと危機管理の対応策～」
外務省領事局政策課領事専門官 新保 剛氏
外務省領事局政策課外務事務官小川智弘氏
2018 年 第 5 回「外国語！どう向き合う？どう学ぶ？バイリンガル教育の専門家が説く
＜母語の重要性＞」
トロント大学名誉教授 中島和子氏

1991 年 第 5 回シンポジウムの様子

2018 年 第 5 回講演会の様子

～賛助企業のご紹介～

（順不同）

TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動

株式会社JCM

NIPPON STEEL

株式会社リロケーション・インターナショナル

HONDA
The Power of Dreams

kao
きれいを こころに 未来に

BRIDGESTONE

NISSIN GROUP

JT

早稲田アカデミー

皆様のお力添えにより活動しております。心から感謝申し上げます。

フレンズ掲示板

母親が歩いて見た
帰国生のための学校案内 2024

首都圏版　中学・高校編

価格　国内：3,740 円（税・送料込）

海外：3,400 円（送料別）

好評発売中！

Amazon、書店でもご購入可能です。

インスタ始めました！フォロー、
共有よろしくお願いします。

ID：friends_kikokusei_hahanokai

FRIENDS_KIKOKUSEI_HAHANOKAI

スタッフ募集中！

ご希望の曜日に週 1 回、銀座のオフィスで一緒に活動してくださる仲間を募集しています。

活動時間：月～金　10:30～16:30　ご都合に合わせ、在宅ワークと組み合わせての活動も可能です。

＊交通費実費、昼食代補助支給

＊③を中心にご協力いただくネットワーク会員も同時募集！（登録制。不定期の活動）

【主な活動内容】

①年に一度発行「帰国生のための学校案内」制作。学校訪問＆訪問記の執筆。

②協力企業・団体の依頼によりエピソードや体験談を執筆。

③赴任前、帰国後相談（主に Zoom 等オンラインにて実施）。

↑ ↑ ↑
お申込み、お問い合わせ
はこちらから

～御礼～

ワンルームマンションの一室で産声をあげてから、40 年の歳月が流れました。フレンズ帰国生母の会 40 周年に際したくさんの方から、お祝いのお言葉をいただき、誠にありがとうございます。これまで続けてこられましたのは、多くの方のご支援があってのことです。賛助企業の皆様、関係機関の皆様、学校案内に掲載の学校の皆様、ネットワーク会員の皆様、代々のスタッフとその家族の皆様、たくさんの方々のお力添えに、スタッフ一同心から感謝申し上げます。「フレンズだより 40 周年記念号」制作にあたり、40 年を振り返って発足当時のスタッフの思い、活動の状況などもあらためて触れることができました。数々の困難を乗り越え、ひたすら子供たちの明るい未来のために活動してまいりました。社会の状況は変化しますが、思いは変わらずお役に立てるよう、これからも取り組んでまいります。

今後も温かいご支援、ご指導いただけますようお願い申し上げます。

フレンズ 帰国生 母の会　代表　西地 佐和子

編集後記

40 周年記念号、お楽しみいただけましたか。制作にあたり改めて、立ち上げ当初の方々の志に触れ、また多くの企業や学校のご協力に支えられて今があることに気付かされました。少しずつ形を変えながらも、今まで携わってきた皆様の想いを大切に、会を継続・発展していけたらと願っています。

発行/フレンズ 帰国生 母の会
〒104-0061 東京都中央区銀座 5-3-16 日動火災・熊本県共同ビル 8 階
TEL 03（6633）4096　FAX 03（3573）1217　Email:fkikoku@gaea.ocn.ne.jp